|  |  |
| --- | --- |
| ５月１５日  （日）  Ⅱテサロニケ  ３章 | **「すべての人に、信仰があるわけではないのです。しかし、主は真実な方です。必ずあなたがたを強め、悪い者から守ってくださいます」（２～３節）。**十字架のキリストが下さる信仰を維持することはなんと難しいことか。信仰あるなしに関わらず、主はすべての命を大切に慈しんでくださっているのだろう。その主にならう歩みをすることができますように。 |
| １６日  （月）  Ⅰテモテ  　　１章 | **「わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした」（１６節）。**イエス・キリストの十字架と復活は、人間が罪人なのか、善人なのか、など関係なく起こった出来事。その十字架の出来事を「私」はどう捉えるのか、考えていきたい。 |
| １７日  （火）  Ⅰテモテ  　　２章 | **「神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです」（５節）。**神との関係は私たち一対一だったとしても、人と神を仲介できるのは、イエス・キリストだけ。そのキリストを私たちの命を救い出してくださった主であると告白される私たちとされたい。そして、その告白だけでなく、キリストに従う歩みに押し出されていきたい。 |
| １８日  （水）  Ⅰテモテ  　　３章 | **「行くのが遅れる場合、神の家でどのように生活すべきかを知ってもらいたいのです。神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です」（１５節）。**信仰の共同体を家と言い換えるのは、生活と信仰の共同体としての歴史や、家を開放して礼拝をしていた歴史が関係するのだろう。教会は私の家であると同時に神の家であることを覚えたい。  **大井バプテスト教会** |

メール配信登録メール　[senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

|  |  |
| --- | --- |
| １９日  （木）  Ⅰテモテ  ４章 | **「神がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。神の言葉と祈りとによって聖なるものとされるのです」（４−５節）。**神がお造りになったものはすべてが良いもの。人がどんな道を歩んだとしても、神は良い創造物として、悔い改めるチャンスを人に与えてくださっているのだろう。 |
| ２０日  （金）  Ⅰテモテ  ５章 | **「神とキリスト・イエスと選ばれた天使たちとの前で、厳かに命じる。偏見を持たずにこれらの指示に従いなさい。何事をするにも、えこひいきはなりません」（２１節）。**私たちの社会にある属性（年齢や性別、職業など）で人を見るのではなく、神が私たちを見るように、神の眼差しを持って、人と出会うことができますように。 |
| ２１日  （土）  Ⅰテモテ  ６章 | **「神の人よ・・・信仰の戦いを立派に戦い抜いて、永遠の命を獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で立派な告白をしたのです」（１１-１２節）。**信仰を頂いてもなお、主に従う道には葛藤があったり、戦いがあると聖書は語る。その戦いを戦い抜く力を十字架の道を歩まれたイエス・キリストからいただきたい。 |
| ２２日  （日）  Ⅱテモテ  １章 | **「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です」。**パウロほど、自分の罪を見つめていた者はいない。同時に、パウロほど、主イエスの恵みをあふれるほど受けた者もいない。「罪人の中で最たる者」に示された神の慈しみを大切に受け取っていきたい。 |

****